

# 高校生との意見交換会実施報告

令和8年3月

東金市議会

# 目次

第1	はじめに .....	3
第2	意見交換会の概要.....	4
第3	意見交換会の総括.....	5
第4	テーマ別意見整理.....	6
	(1) 交通・移動 .....	6
	(2) 安全・防犯 .....	7
	(3) 商業・賑わい .....	7
	(4) 文化・教育・居場所 .....	8
	(5) 環境・景観.....	8
	(6) 経済・まちの活性化 .....	9
	(7) 市民参加・コミュニティ .....	9
第5	東金市における課題の整理.....	10
第6	今後の施策に対する考え方.....	12
第7	おわりに .....	14

# 第1 はじめに

東金市議会は、日本国憲法の定める地方自治の本旨の下、二元代表制の一翼を担う議会として、市民福祉の向上及び地域社会の活力ある発展の実現を目指し、その権能の発揮に努めてきました。この理念を具体化するため、東金市議会では、議会に関する最高規範として東金市議会基本条例を制定し、公平・公正・透明な議会運営と、市民に開かれた議会づくりを推進しています。

同条例第1条及び第2条においては、議会の役割として、市民の負託に的確に応え、市民の意思を市政に反映させることが明確に位置付けられています。

また、第3条第4号においては、「市民の多様な意見を的確に把握し、市政に反映させるための議会運営を目指す」ことが議会の活動原則として定められています。

さらに、第6条第2項では、「議会が市民と多様な意見交換の場を設け、政策立案能力の強化及び政策提案の拡大に努める」ことが規定されており、第7条第1項においては、「意見交換会を含む議会報告会を年1回以上実施する」ことが明記されています。これらの規定を踏まえ、東金市議会では、昨年度一般市民との意見交換会を実施しましたが、将来の東金市を担う若い世代の声を市政に反映させることも、条例の理念に沿った重要な取組であると考えました。

高校生は、進学や就職といった将来の選択を目前に控え、本市での生活や教育環境、地域の魅力や課題を日常的に実感している世代である一方、その意見を市政に直接届ける機会は限られています。そこで東金市議会では、東金市議会基本条例の趣旨に基づき、高校生との意見交換会を実施し、若者世代の率直な意見や提案を聴取することといたしました。

本報告書は、当該意見交換会において寄せられた高校生の意見を議会として整理・分析し、条例に掲げる「市民の意思を市政に反映させる議会」の実現に資するものとして、市長に対し報告することを目的に取りまとめたものです。

## 第2 意見交換会の概要

本意見交換会は、令和7年10月18日に東金市役所において開催し、会場として議場及び第1委員会室、第2委員会室を使用し、市内の高等学校3校（千葉学芸高等学校、千葉県立東金高等学校、千葉県立東金商業高等学校）から、各校7名、計21名の高校生が参加しました。

当日は、まず議場において、東金市議会委員会による活動報告を行った後、高校生との質疑応答を実施し、その後、第1委員会室及び第2委員会室においてグループに分かれ、「東金駅東口改札の開設を契機としたまちづくり」をテーマとして意見交換を行いました。

グループ討議終了後には、再び全体で集まり、各グループから意見の発表を行うとともに、高校生の視点から見た課題や提案について全体で共有を図りました。

### テーマ設定の趣旨

東金駅においては、かねてより市民から要望が寄せられていた東口改札が、令和8年3月から供用開始される予定です。東口改札の開設は、駅利用者の動線や人の流れに変化をもたらし、駅周辺のみならず本市全体のまちづくりに影響を与える重要な契機になると考えられます。

東金駅周辺では、西口側に商店街や八鶴湖、市内高等学校3校が集積する一方、東口側には市役所や図書館、東金中央コミュニティセンター、サンピア、国道126号バイパスなどの公共・商業・交通機能が配置されており、駅を挟んで異なる機能が形成されてきました。また、駅周辺の公共施設の多くは、今後、長寿命化改修や建て替えの判断が求められる時期を迎えています。

こうした状況を踏まえ、東口改札の供用開始により人の流れの変化が見込まれる今、駅周辺及び東金市全体の将来像を見据えたまちづくりについて検討する必要があることから、本テーマを設定しました。あわせて、将来の東金市を担う高校生世代の視点から、率直な意見や提案を聴取し、今後の市政に反映させることを目的として意見交換を行いました。

### 第3 意見交換会の総括

本意見交換会では、東金駅東口改札の開設を契機としたまちづくりについて、高校生の日常生活の実感に基づく具体的かつ率直な意見が示されました。

意見は大きく「交通・移動」「安全・防犯」「商業・賑わい」「文化・教育・居場所」「環境・景観」「経済・まちの活性化」「市民参加・コミュニティ」の視点に整理できます。

「交通・移動」に関しては、駐輪場の拡充や屋根設置、歩道及び自転車通行空間の整備、送迎スペースの確保、公共交通の利便性向上など、駅周辺のアクセス環境の改善を求める意見が多く挙げられました。東口改札の設置そのものよりも、安全かつ円滑に利用できる周辺環境の整備が重要視されていることがうかがえます。

「安全・防犯」の分野では、街灯の増設や夜間の明るさの確保など、安心して通学・滞在できる環境づくりを求める声が見られました。

「商業・賑わい」については、カフェや飲食店、コンビニエンスストア、ATMの設置に加え、大型商業施設やアミューズメント施設の誘致を求める意見が多く出されました。これらは単なる購買機能の充実ではなく、放課後や休日に滞在できる場所を求める意識の表れと考えられます。

「文化・教育・居場所」の観点では、勉強スペースや無料Wi-Fi環境、交流スペースの整備など、若者が安心して過ごせる居場所づくりを求める意見が目立ちました。駅周辺を通過点ではなく生活空間として捉えていることが読み取れます。

「環境・景観」については、清潔感のあるまちなみや休憩空間の整備に関する意見が示されました。

また、「経済・まちの活性化」の観点からは、若者が集まる環境やイベントの実施など、他市へ行かずとも楽しめるまちづくりを望む声が挙げられました。

「市民参加・コミュニティ」では、だれでも利用でき、世代を超えた交流が日常的に生まれる場の創出を求める声が上がりました。

これらの意見から、高校生は東口改札の開設を単なる利便性向上にとどまらず、生活の質の向上とまちの魅力創出の契機として捉えていることが明らかとなりました。本意見交換会は、東西の地域特性を踏まえた総合的なまちづくりを検討する必要性を示すものであり、次章ではこれらの意見をテーマ別に整理し課題の明確化につなげます。

## 第4 テーマ別意見整理

本章では、意見交換会において高校生から示された意見を、内容の性質に応じて分類し整理します。

---

### (1) 交通・移動

#### 主な意見

- バスの本数が少なく、帰宅時間に合わない
- 道の駅方面への路線が必要
- 駅東西の移動がしづらい
- 歩道が狭く危険、夜間は暗い
- 路面の凹凸が多い
- 駐輪場の不足、屋根設置や無料化の要望
- 自転車と歩行者の動線が混在している
- 送迎車の停車スペース不足

#### 背景

高校生は、徒歩・自転車・公共交通に依存した生活圏を形成している。そのため移動環境の利便性が行動範囲に直結しており、移動のしにくさが外出機会の減少や市外への流出につながっている状況がうかがえる。駅周辺は通過利用を前提とした構造となっており、生活動線としての整備不足が課題として認識されている。

---

## (2) 安全・防犯

### 主な意見

- 夜間が暗く不安
- 人通りが少ない
- 帰宅時に怖いと感じる場所がある
- 防犯カメラの不足
- 雨天時や待ち合わせ時の滞在場所がない

### 背景

高校生の帰宅時間帯は夕方から夜間にかけてであり、駅周辺の滞在人口が減少する時間帯と重なる。そのため心理的不安が生じやすく、設備面だけでなく人の存在の少なさが安全性の評価に影響している。滞在空間の不足が防犯意識の低下につながっていると考えられる。

---

## (3) 商業・賑わい

### 主な意見

- コンビニ・ATM が少ない
- 飲食店が少ない
- 安価に利用できる店舗が欲しい
- 長時間過ごせる店舗が欲しい
- 放課後に立ち寄れる場所が少ない

### 背景

高校生の消費行動は少額・高頻度であり、短時間の滞在利用が中心となるが、駅周辺は車利用を前提とした店舗構成となっている。そのため日常的に立ち寄る場所としての機能が弱く、結果として他市の商業施設へ流出している状況がうかがえる。

---

## (4) 文化・教育・居場所

### 主な意見

- 勉強できる場所がない
- 放課後の居場所が欲しい
- 世代を問わず利用できる交流スペース
- 子どもの室内遊び場
- 大きな図書館・公園の整備
- 水族館・博物館等の文化施設
- スポーツ施設の充実
- 公共施設と若者向け施設の複合化

### 背景

学校と家庭の間に位置する第三の居場所が不足しており、放課後の滞在先が限られている状況が示された。特に天候に左右されない滞在空間の需要が高く、単独施設ではなく複合的な公共拠点としての整備が求められている。

---

## (5) 環境・景観

### 主な意見

- まちの印象が暗い
- 駅前がさびしい
- 緑や休憩空間が少ない
- トイレが汚い
- 滞在したくなる雰囲気がない

### 背景

高校生は駅周辺で過ごす時間が比較的長く、機能性だけでなく雰囲気や快適性を重視する傾向がある。景観や清潔感は心理的安全性や滞在意欲に直結しており、空間環境の質が利用頻度に影響していると考えられる。

---

## (6) 経済・まちの活性化

### 主な意見

- 若者が他市へ流出している
- 大型施設の誘致
- 遊べる場所の不足
- 人が集まる仕組みが必要

### 背景

買い物や余暇活動の多くが市外で行われており、地域で過ごす機会が減少している状況が示された。これは短期的な消費の問題にとどまらず、将来的な定住意識の低下につながる可能性がある課題として認識される。

---

## (7) 市民参加・コミュニティ

### 主な意見

- 誰でも使える場所が欲しい
- 世代が混ざる施設
- 日常的に交流できる空間
- 気軽に集まれる場所

### 背景

学校外での地域との接点が少なく、自然な交流が生まれにくい環境となっている。イベント型ではなく日常的に人が集まる空間の必要性が示されており、交流が自然発生する環境整備が求められている。

## 第5 東金市における課題の整理

本意見交換会は東金駅東口改札の開設を契機として実施したのですが、高校生からの意見は駅前空間にとどまらず、通学、移動、滞在、余暇活動、商業利用など生活圏全体に及びました。

このことから、東口整備は単なる駅施設の機能拡張ではなく、本市の都市構造や都市機能の再整理を検討する契機であると捉えられます。

第4章の意見を踏まえ、以下のとおり課題を整理しました。

---

### (1) 通学動線を含めた歩行者・自転車中心の移動環境の不足

高校生からは、駅周辺のみならず、駅から各高校へ向かう通学路、とりわけ旧道における道幅の狭さや段差、歩道未整備による危険性が多く指摘された。また駐輪場不足や公共交通の利便性に関する意見も多く見られた。

これは駅前広場の整備の問題ではなく、生活動線としての道路ネットワークの安全性と連続性が確保されていないことを示している。

東口改札により人流が変化した場合、危険箇所が拡大する可能性があり、市域全体で歩行者・自転車を優先した移動環境の再設計が必要である。

---

### (2) 滞在機能・居場所機能の不足

放課後に滞在できる場所、屋内で過ごせる場所、学習や交流が可能な場所の不足が多く挙げられた。図書館や交流施設の拡充、若者と高齢者が共存できる複合施設を求める声も見られた。

現在の駅周辺は「通過点」としての性格が強く、滞在を前提とした都市機能が不足している状況にある。

東口開設後の人の流れを活かすためには、単なる商業誘導ではなく、日常的に滞在できる公共的空間の整備が課題となる。

---

### (3) 商業機能の分散と都市の魅力形成の弱さ

西口商店街の充実を求める意見と、東口側の賑わい創出を求める意見が併存した。また大型商業施設や娯楽施設を求める声も見られた。

これは東西の機能差の問題というより、都市全体として目的地が不足している状態を示している。

駅の東西いずれかに集約する議論ではなく、役割分担を踏まえた都市機能配置の再整理が求められる。

---

### (4) 景観・公共空間の質の課題

「まちがおしゃれでない」「トイレが古い」「歩きにくい」などの意見は、施設単体ではなく都市空間全体の印象に関するものであった。

これは利便性の問題に加え、公共空間の質（デザイン・快適性・清潔感）が都市の評価に影響していることを示している。

東口整備にあわせ、景観・公共空間の統一的な質の向上が必要である。

---

### (5) 公共交通ネットワークの弱さ

駅へのアクセスだけでなく、市内移動手段としてのバス路線の不足や移動のしにくさが指摘された。

特に学生にとって自家用車に依存しない移動環境が十分ではない状況が見られる。

これは駅利用促進の観点からも重要であり、鉄道と地域交通を一体として設計する視点の不足が課題である。

---

### (6) 若者視点の都市政策への反映不足

高校生の多くが「遊ぶ場所がない」「居場所がない」と感じており、生活実感と都市整備の方向性に乖離が見られた。

これは施設不足だけでなく、若年層の生活行動が都市計画に十分反映されていないことを示している。

東口開設を契機として、将来世代の利用実態を踏まえたまちづくりへの転換が必要である。

## 第6 今後の施策に対する考え方

本意見交換会を通じて得られた高校生の意見は、駅東口整備に関する要望にとどまらず、本市の都市機能や生活環境の在り方に関わる広範な課題を示すものでした。

東金駅東口改札の供用開始は、単なる交通機能の拡充ではなく、本市のまちづくりの方向性を再整理する契機と捉えることができます。

以上を踏まえ、今後の施策検討において留意すべき方向性を以下に整理しました。

---

### (1) 通学動線を含めた安全な移動環境の確保

駅周辺のみならず、駅から各高校へ至る通学路を含めた面的な安全対策の検討が求められる。特に狭隘道路や歩道未整備区間における歩行者・自転車の安全確保は重要な課題である。

東口改札開設により人流の変化が想定されることから、生活動線全体を見据えた道路環境の点検と段階的改善の検討が必要である。

---

### (2) 若者世代を含めた滞在型公共空間の形成

東口・西口のいずれかに機能を偏在させるのではなく、それぞれの立地特性や既存資源を踏まえた役割分担を整理する視点が重要である。

既存商店街の活力を維持しつつ、新たな人の流れを創出する都市機能の配置を検討することが、駅を中心とした面的なまちづくりの推進につながる。

---

### (3) 東西の特性を活かした都市機能配置の再整理

東口・西口のいずれかに機能を集中させるのではなく、それぞれの立地特性を踏まえ役割分担を明確にしたまちづくりを推進されたい。

既存商店街の活性化と新たな賑わい創出を両立させ、目的を持って訪れる都市空間の形成を図られたい。

---

#### **(4) 公共空間の質の向上による都市イメージの改善**

施設更新や駅周辺整備にあたっては、機能性のみならず景観・デザイン・清潔性といった公共空間の質にも配慮することが重要である。

統一感のある空間形成は、市民の愛着形成や来訪者の印象向上に寄与するものであり、今後の整備において重視すべき観点である。

---

#### **(5) 地域公共交通ネットワークの再構築**

鉄道利用を基軸とした都市構造を見据え、バス等の地域交通を含めた移動体系の在り方について検討を進める必要がある。

通学・通勤・日常生活において自家用車に過度に依存しない移動環境を整備することは、持続可能な都市運営の観点からも重要である。

---

#### **(6) 若年世代の意見を継続的に反映する仕組みの構築**

将来のまちづくりを担う若年世代の意見を政策形成に活かすためには、学校等との継続的な意見交換の場を確保することが望ましい。

単発の意見聴取にとどまらず、計画策定過程における参画機会を設けることが、実効性のある施策形成につながるものと考えられる。

---

本報告書に取りまとめた内容は、将来を担う世代の率直な声に基づくものであり、今後の東金駅東口整備及び関連施策の検討にあたり、重要な視点として十分に尊重されるべきものです。これらが着実な施策展開へとつながることを強く期待します。

## 第7 おわりに

本報告書は、将来の東金市を担う高校生世代との意見交換を通じて得られた率直な声をもとに、東金市議会として課題を整理し取りまとめたものです。

高校生からは、駅周辺の整備に関する意見のみならず、通学環境、居場所、交通、賑わい、都市の魅力など、日常生活に根ざした多様な視点が示されました。これらの意見は、本市に暮らす若い世代が感じている現状の課題であると同時に、将来のまちづくりに対する期待の表れでもあると受け止めるものです。

東金駅東口改札の供用開始は、本市の都市構造や人の流れに変化をもたらす契機となります。今後のまちづくりにおいては、駅周辺の整備にとどまらず、市域全体を視野に入れた総合的な都市形成の観点から施策を検討していくことが重要です。

本報告書に示した内容が、今後の施策検討において十分に踏まえられ、将来世代の視点を取り入れた持続可能なまちづくりの推進につながることを期待するものです。

東金市議会としても、引き続き市民の多様な意見を的確に把握し、市政へ反映させる役割を果たしてまいります。

以上、本報告書を取りまとめました。

令和8年3月19日

東金市長 鹿間 陸郎 様

東金市議会議長 坂本 賀一